

恵みと真理のニュース



2016年11月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

御言葉を聴き読むことに恵みと真理で充滿にしてください、 遅い年に子どもを産んで育てる福を神様が与えてくださいました

私は偶像崇拜をする家庭で生まれ小学生ごろ友たちをついて1年間田舎にある教会に通いました。しかし、その時にはイエス様を信じると魂が救われるという意味も知らなくて教会の人々から愛を受けて友達と共に楽しく過ごすのが好きで通いました。そして、田舎から離れて住みながら教会と遠くなりました。

私の家より酷く偶像崇拜をする家庭で嫁に行きました。もちろん旦那も神様を信じない人でした。結婚して何年経っても妊娠が出来なくて私の夫婦は待ちくたびれて仕方なく私達だけ楽しく生きようと思いました。しかし、生きる人生が無意味になり生きる意欲も失いました。落胆と絶望が酷くなって後はうつ病や不眠症に悩まされることになりました。

そうするうちに保険会社に通っている知り合いの人が私の家によく来ていろいろな生活用品をくれて保険に加入するように勧めました。熱心に教会に通っていた執事だったのである日から私に伝道をして教会に行こうと勧めました。執事の手導かれ久しぶりに教会に行ったらまるで実家のように温かい感じでした。執事と教会の方達が親切にしてくださいまして感謝しました。教会に通って3か月ぶりに聖霊洗礼を受けていげんの賜物も受けました。世の世界から受けなかった神霊な喜びと神様の愛を体験しました。そして、私が礼拝に忠実に積極的の信仰生活を始めると旦那も私を迫害をしました。夫婦が信仰生活をする家庭を見るときともうらやましいでした。忍耐しながら旦那の伝道に力

を尽くして神様の助けを求めて祈った結果3年後、旦那も教会に来てイエス様を受け入れました。私の夫婦が共に捧げる喜びは得られられない喜びで、幸せで充滿でした。牧師の説教を聴いて聖書の御言葉を黙想するとき人の道理と世の中を生きていく知恵に関してより多く悟りを得て、信仰が育ちました。生きる中心を忘れてはいけないことやなぜ生きるのか、どのように生きるべきか生きる本質は何かと答えを悟りました。聞いてまた聞いても悟られ豊かな知恵が入っているか、まるで金を探すように平安と喜びを味わいました。“あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。(詩編119:103)”という詩編記者の告白が私の告白になりました。

このように喜び溢れる信仰生活をしている時、美容室を運営する義姉が双子を産んで忙しくて一人に子を代わりに育てると頼まれました。甥を赤ちゃんの時から小学生まで育てて家に帰りました。甥が家に帰ったら心が悲しくて寂しくなりました。たとえ、私の歳が妊娠するには遅い歳でしたが妊娠したい心が切なくなりました。

そうするある日、部屋に休んでいる時、いつものように御言葉を黙想するため聖書を開いてエペソの信徒への手紙2章の御言葉を読む中で心が熱くなり主の恵みと愛を深く感じるようになりました。また、“キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告知せられました。それで、このキリストによってわたし

たち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト。イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

初めは甥を帰って落胆している時、御言葉を通して神霊は慰めてくださいました。ところが、一年後、私が妊娠しました。ハレルヤ1995年夏に息子を産みました。43歳の時でした。今は子供を持つ歳が高くなりましたが、その時には不可能なことでした。教会で隣の人々から祝ってもらい粉ミルクやおむつももらいました。息子の名前はヨハンと牧師が作ってくださいました。ヨハンが2歳になる歳にアンサンに引越して熱心に主と教会を仕えました。

その間、案手執事になって主日になると朝から午後遅くまでアンドレ室で楽しく奉仕しています。息子は健康に育って大学3年生になって主日礼拝に準備賛美を導きながら聖歌隊で奉仕しています。子供の時から信仰生活するように助けてくださった神様の恵みと愛を言葉で表現できないほど感謝します。私にも勸士の職分をくださってこれをよく担えるように健康も与えてくださる恵みにまた感謝します。

“主が望まれるのは主を畏れる人／主の慈しみを待ち望む人。(詩編147:11) ハレルヤ!



【信仰コラム】

防波堤

“何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。...” (ピリッポ書4:6、7)

沿岸の外港と内港の間にある防波堤は津波が港口に停泊した船と施設物、海岸に近い家に害を及ぼすことを防ぐ役割をします。台風や地震が津波を起こすように私たちの日常生活に発生する問題が不安と心配の荒波を起こします。なので不安と心配の荒波が心の港口と海岸を荒らすことができないようにするには適切な措置が必要です。言い違って、心に防波堤を建設すべきです。その四つの防波堤について調べてみましょう。

第一、感謝の防波堤があります。

ダニエルは「誰でも30日の間に王以外のある神や人に求める者は獅子の穴に投げ込むようにする」ダリヨス王の詔書によって命が危うい状況に置かれたのにも関わらず、以前の通りにお祈りしながら神様に感謝しました。ダニエルは獅子の穴に投げ込まれたが神様が天使を送りなさい獅子の口を塞いだので無事でした。ダニエルの心には感謝の防波堤がありました。何事があっても神様に感謝したのでその感謝が防波堤の役割をして不安と心配の波が荒らぐ押し寄せても彼の心には侵犯することができませんでした。

第二、お祈りの防波堤があります。

心配するようにする問題はこの世のどこにもあるが、全ての人心配の波に荒されて生きるではありません。お祈りは心配の波を防いで消滅する最上策であります。神様にお祈りすると「人知ではどうい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いを、キリスト、イエスにあって守るであろう。」としました。心の平安はお祈りをする者に与えてくださる神様のプレゼントであります。神様の平安が心にできるとこれは神様の手に問題が任されたことを意味する青信号です。お祈りは不安と心配から心が平安であるように守ってくれる防波堤であります。

第三、賛美の防波堤があります。

モアブ、アンモン、マオン連合軍がユダヤを侵襲した時、神様を敬う信仰が徹していたヨシャパテ王は民達に禁食令を宣布して民達と共に神様の宮の庭に集まってお祈りしました。賛美する任務を担っているレビ子孫はイスラエルで大声をあげて神様を賛美しました。王と民達は予言者を通じてくださった勝利の予言を信じて既に戦争で勝利を得たように賛美しました。ヨシャパテ王と民達が感謝の賛美を歌いながら戦場に行ってみたら、見えることは倒れた死体と物資だけでした。神様が介入して摂理してくださったので連合軍が互いに殺して全滅したので戦わずに勝利の結果物である戦利品を取り入れました。ヨシャパテ王と民達は連合軍と戦うために戦場に行く時に恐れたり、心配せずに賛美しました。すると、恐れと心配の津波が賛美の防波

堤に当たりその威力を現わせることができませんでした。

第四、聖書のお言葉の防波堤があります。

ある女性が妊娠して定期的に病院に行き診察を受けたが、出産日が近づいて問題が発生しました。出産する中に大出血が発生して命を失う危険が高いという医師の診断を受けたのです。恐れと心配で心が騒ぐ女性に夫が自分の危機克服の方法を教えてあげました。それは信仰と神癒に関する聖書のお言葉を読んで黙想することでした。その女性が夫の忠告通りに聖書のお言葉を語って黙想しはじめたら、ある瞬間に彼女の心に不安と心配がなくなり信仰と平安が落ち着くようになりました。そして、驚くべきにも無事にお産しました。その瞬間医師が「このようなことは奇跡だ。」と話したそうです。聖書のお言葉の防波堤が不安と心配を防いでくれて、神様の奇跡を産出しました。

皆さんは不安と心配がない所を探しまわるのではなく不安と心配の波が入らないように心に防波堤を堅固に建設してください。感謝の防波堤、お祈りの防波堤、賛美の防波堤、聖書のお言葉の防波堤を持つことで常に大胆で平安な心で生きていってください。

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

私の平安、私の喜び



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

幸せという単語を辞書で搜してみれば “嬉しくて豊かでふくよかで暖かい状態” と解釈されています。幸せと言うのは単純に定義しにくい単語に属します。その人が所有することの種類と大きさそして処した状況は幸せに密接な関連があるが必ず幸せと直結されるのではないです。ところで幸せの要素の中にならずあることがあります。それは ‘平安と喜び’ です。財物が多くても心が心細くて憂鬱な人は幸せではないです。高い地位を持って心にも平安がなく陰鬱な人は幸せではないです。しかしどんな都合でも心が平安で嬉しければ幸せです。そうするから人々は平安と喜びを切に望ましてそれを得るためにあらゆる手段と方法を使います。ところで世の中が与える平安と喜びは易しく枯渇します。後遺症もできて蜃気楼のようなこともあります。このような人生にイエス様がありがたいメッセージを宣布しました。“わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。” (ヨハネによる福音書 14:27)、“わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。” (ヨハネによる福音書 15:11) イエスキリストがくださる平安と喜びはイエス様の自分が持った平安と喜びです。‘私の平安’ ‘私の喜び’ とおっしゃいました。その平安の性格がどうか分かるようにする事件が マタイによる福音書 8 章に記録されています。イエスキリストが一日中活動して日暮れになってカリリ湖の東の方に渡ろうと弟子を連れて舟に上りました。イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。ところがイエス自身は、船の後ろの方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおほれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。」と叱りました。すると海が直ちに穏かになりました。イエス様の平安を害する風波がなく、イエス様の平安は風波を圧して穏かにさせるということを現わしています。イエスキリストがおっしゃるのを私の平安をあなたがたに与えるとしたし、私の喜びがあなたがたにおいてあなたの喜びを充滿させようと思ふことと言いました。‘あなたがた’は誰を示すことですか？ イエスキリストを自分の救世主に信じて迎接したすべての人を示す言葉です。イエスキリストがくださる平安と喜びはイエスキリストを救世主に信じて迎接するすべての人にくださる恩寵です。

しかし神様の驚くべきな平安と喜びを享受して生きれば私たちがすべきことがあります。

第一、心をつくして祈って讚尿すれば神様がくださる平安と喜びを享受することができます。

使徒パウロは神様の引導するに付いてマゲドニアのピルリブポ城に行って福音を伝えました。パウロ連中が行く道に占う悪魔に捕まれた女しもべが付きまとして彼らをいじめるのに女人から悪霊を追い出しました。すると女しもべの主人は占う女しもべが悪霊が離れたことに対して悔しく思いました。彼らのお金儲け手段が消えた理由でした。彼らがパウロとシラスを官員に連れて行くと上官が判決を下してパウロとシラスの服を裂いてむいてたくさん打った後に監獄に閉じこめました。船はずいていて首はガルしながら打たれた身の苦痛は時間が経つほどますます加えて行くので夜が深くなってもパウロとシラスは眠ることができなかつたはずでした。ところで夜の十二時頃なって驚くべきことにパウロとシラスが音高めて祈って神様を讚尿しました。この時監獄が動いて門がすべて開かれながら縛られたのがすべてはげました。寝て覚めた看守が自殺しようと刀を抜いた。ローマの法によれば罪囚が脱獄した場合に看守が代わりに殺されるようになっているのに監獄ドアがあいているから罪囚が逃げたと判断したからでした。パウロが大声を出すのを “あなたの身を傷つけないで 私たちがすべてここにいる。” と言いました。看守がいよいよ気をつけて燈を持って現場確認をしてからはパウロとシラスの前にひざまずきました。看守はパウロとシラスを連れて出ました。そして “私がどのようにすれば救いを得るのか?” と尋ねました。パウロは簡単で明瞭に救いの真理を言いました。“「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。」” (使徒行伝 16:31) そして救いに係る福音の核心的な内容を説明すると看守とすべての家族がすべて福音を受け入れました。彼らは皆洗礼を受けたし大きく喜びました。パウロとシラスが監獄で祈って讚尿を呼んだ場面は立派な亀鑑になります。どんな都合でも心をつくして祈って讚尿する人の心霊には主イエスキリストから平安と喜びが満たされるようになります。

第二、神様のお言葉を黙想してそのお言葉に根拠して信仰で言えば神様がくださる平安と喜びを享受することができます。

使徒パウロはアンデーオック教会で宣教師に派遣されてアジアとヨーロッパの多くの地域を通いながら福音を伝えて教会を設立しました。パウロは第 3 次伝道旅行を終えてエルサレムを訪問しました。この時パウロの伝道活動を邪魔するユダヤ人のため騒ぐ事件が起こることによってパウロは罪囚のように監獄に閉じこめられるようになりました。フェリックス総督に審問を受けて裁判を受けたが総督がユダヤ人を意識した理由でパウロはただ拘留されていました。2 年の経った後パウロは新しい総督ペストの前で裁判を受けるようになるとローマ皇帝に上訴すると言いました。そしてパウロは他の罪囚と一緒に親衛隊の百夫長ユルリオの護送の下にローマに行くようになりました。彼らの乗った船はカイサリヤで出航したシムラ城でアレキサンドリア船に乗り換えて行船してクレタ島の南端に位置した美港に停泊しました。

美港は多くの日とどまるによい所になることができなくて船主と船長は上の側にあるブエニックス港に行って冬を過ごすこと願いました。使徒パウロが引き止めて “皆さんよ、私が見たら今度の航海で貨物と船だけではなく我が命にも打撃と多くの損傷があるでしょう。” としました。これは聖霊様の教えを受けて言う忠告でした。しかし百夫長はパウロの言葉より船長と船主の話をもっと信じて出港を承諾しました。初めには順調に出発したがいくらならなくて ‘ユラグロ’ という狂風が対飲しました。その船には船員と商人と軍人と旅行者客そして罪囚まで皆 276 人の人々が乗っていました。暴風は続いて日と星が見えない中に滲む荒々しい風浪に滞って地中海を漂流しました。人々は泣き叫んで右往左往しました。すべての人が何も食べることができず恐怖と絶望に震える日が多くの日続きました。ところでパウロの心霊は平安が一杯でした。暴風は続いて滲む難破されて行く最悪の状態パウロは死の恐怖に押さえ付けられて精根がつかれた人々の中立って叫びました。“だが、この際、お勧めする。元気を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』。だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている。” (使徒行伝 27:22~25) 平安で確信にあふれたパウロの態度はすべての人を圧倒しました。使徒パウロのこのような処身は神様のお言葉に対する確信から始まったのです。その後パウロが完全に主導権を握って陣頭指揮して結局一人も死なないで皆島に上陸するようになりました。真の信仰は最悪の場合にも神様のお言葉どおりになることを確信するのです。神様のお言葉を完全に信じれば我が腹の中に平安と所望がいっぱいになるようになります。神様のお言葉はいつも信実します。天地は変わろうとも神様のお言葉は一つも変わらないです。“神は人のように偽ることはなく、また人の子のように悔いることもない。言ったことで、行わないことがあるか、語ったことで、しとげないことがあるか。” (民数記 23:19) で聖書に記録されました。

どの状況でも全心に祈って讚尿する人はイエスキリストがくださる平安と喜びを享受することができます。どの都合でも聖書お言葉を黙想してそのお言葉に根拠して信仰で言う人はイエスキリストがくださる平安と喜びを享受することができます。だから聖徒の皆さんはイエスキリストがくださる平安と喜びを積極的に享受するので幸福感を持って生きて行ってください。